

おっぱいだより

23号

いつの間にか梅雨が明けて、あっという間に暑い夏となりましたが、皆様の体調は気候に追いついているでしょうか？

院内 Web の片柳院長の投稿で知った方もいらっしゃると思いますが、**新潟市民病院**は「**赤ちゃんにやさしい病院：BFH**」に認定されました。8月3・4日には東京で母乳育児シンポジウムが開催され、UNICEF 東京事務所 平林国彦所長より、片柳院長が認定証を授与されました。今年は4施設がBFHの認定を受け、日本では72施設となりました。認定されてからも大変だと思いますが、引き続き、ご支援・ご協力をお願いします。



さて、今月は新生児内科 大石医師より昨今流行りの「風疹」についてお話を聞きました。



風しんの流行が続いています。～首都圏と関西地方の報告数が特に多くなっています。～

昨年 2,392 例の報告があり、過去5年間(平成20年～平成24年)では最も多い報告数となりました。今年は3月末時点で、既に昨年の報告数を上回り、全数報告疾患となった平成20年以降、最も早いペースで報告数が増えています。

昨年の報告によると、首都圏や近畿地方での報告が多く、患者の7割以上は男性で、うち20代～40代が8割を占めました。今年も、同様の傾向にあります。

平成23年度の国の調査では、20～40代の男性の15% (20代 8%、30代 19%、40代 17%) が風しんへの抗体を持っていませんでした。

一方、20～40代の女性の4%が風しんへの抗体を持っておらず、11%では感染予防には不十分である低い抗体価でした。

抗体を持たない又は低い抗体価の妊娠中の女性が風しんにかかると、赤ちゃんに難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害(先天性風しん症候群)が起こる可能性があります。

昨年からの流行の影響で、平成24年10月から平成25年7月10日までに、13人の先天性風しん症候群の患者が報告されました。

妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、抗体を持たない又は低い抗体価の妊婦の方は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えるようにしてください。また、妊婦の周りにいる方(妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等)は、風しんを発症しないように予防に努めて下さい。(厚生労働省)

というニュースは皆さんお聞きになったことと思います。

でも今なぜ急に風疹患者が増えたのでしょうか。かつてはほぼ5年ごとの周期で、大きな流行が発生していましたが、1994年(平成6年)以降大流行はみられていませんでした。(と書いてありますが実は2004年には今年以上の推定4万人の患者発生が起こったと考えられている年があったのですが、翌年からはまったく流行せず、今年ほど騒がれていませんでした。)





風疹の予防接種は、現在では1歳と小学1年生になる前の2回麻疹、風疹ワクチンを定期接種として行っていますが、実は風疹の予防接種が男女ともに定期予防接種となったのは1995年以降のことです。ですから現在26歳以上の男性はもともと風疹の予防接種をしていませんでした。またMMRワクチンの副作用のおかげで予防接種を控えた26歳から34歳までの女性も接種率が低いとも言われています。そこに2011年にアジアで風疹が大流行し、それが昨年から日本に入り今年一気に感染拡大したと考えられます。

風疹は熱や咳などの風邪様症状の後1-5日後発疹が出る病気ですが、さほど重症にはなりません。ウイルスは発疹出現7日前から出現後5日間、患者さんから排泄されます(飛沫感染)。また20-25%は発疹の出ないこともあるといわれています。成人では10%程度不顕性感染(症状は出ないが体にウイルスが入って増殖している。)もあるといわれています。ですからインフルエンザのようにその季節だけマスクや手洗いなどを行い予防が出来るはずはありません。

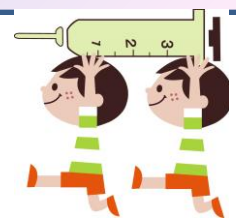
結局風疹の予防には予防接種しかありません！ 予防接種は自分のためにやるものですが、他の人のためでもあるのです。20代以上の男性も女性のために(特に妊婦さんとお腹の子供のため)予防接種を受けてくださいという理由はここにあるのです。でも20代以上の男性がそれならばといってすぐにワクチンを受けてくれる可能性はありません。ですからまず妊娠の可能性のある方で今まで風疹の予防接種を受けていないと思われる方、予防接種回数が不明な方も(3度以上接種したからといって問題はありません。)早めに受けてください。また風疹ワクチンをした女性は2ヶ月は避妊して下さいといわれていますが、風疹の予防接種をした後で、実は妊娠していたということが分かって、今まで風疹ワクチンが胎児に先天性風疹症候群を起こしたと言う報告はありませんので心配しなくとも良いといわれています。

風疹ワクチンの有効率は95%前後といわれており、2回接種することでほぼ100%予防効果があると考えられます。

女性の方はもちろん、男性の方もこのことを理解して、予防接種は子供のときにするものという考えをやめて抗体を持たない人は成人でも積極的に予防接種を受けるようになって欲しいものです。

いかがでしたでしょうか？まずは妊娠可能な年齢の女性で、風疹の抗体を持っていない、抗体が低いと思われる方は予防接種を受けることをお勧めします。今回の風疹の流行がおさまっても、再流行もありそうです。(5年後でしょうか?)

みんなが予防接種をすることで大流行も防げます。大切な人のためにも予防接種を受けたほうが良さそうですね。新潟市では風疹予防接種費用の一部助成も行っているようです。詳しくは新潟市のHPをご覧ください。



さて、BFHの認定証は何だと思いませんか？

実はピカソのリトグラフなのです。

母が子をしっかりと抱きしめている様子が描かれています。

本物は院長室に飾られますが、レプリカは近々皆様の目に触れる場所に飾られる予定です。

その日を楽しみにしていきましょう。